

都心とバスターミナル・市電/清田のまちづくり

No. 256 2021年4月8日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

都心や各区のまちづくりについて、3月12日の予特（第1部）で小形香織議員がバスターミナルと市電について、予特（第2部）で吉岡弘子議員が清田のまちづくりについて質問しました。

都心への車乗り入れ抑制し、市電の役割生かせ 小形議員

■ バスルートの変更による「都心アクセス道路活用」、疑問数々

市が2018年に実施したバス事業者の聞き取り調査で、回答のあった12社中8社が、バスルートを変更した都心アクセス道路を経由させると回答しました。現在、1日900便ある都心発着の都市間バスルートのうち、9割の路線がアクセス道路と接続する札幌北インターチェンジを利用していません。小形議員は、この9割の路線は、市内の一般道で乗客を乗車させていて、そのバスルートを変更すると、利便性を大きく後退させることになりかねないと懸念を表明し、その影響について市はどのように想定しているのかと迫りました。



市担当部長は、民間バス会社が需要を勘案したうえで路線は再編されると、あくまでバス会社の判断に任せられるという答弁に終始。小形議員は、納得せず、市内のバス停留所を廃止してまで、都心アクセス道路を経由して410円の料金がかかる道央道の札幌区間を利用するのか、疑問は解消されないと反論しました。

■ 市電延伸ルート JR各駅との接続重視を要望

また、創成川に面した北5西1街区の東側からバスが出入りするため、渋滞カ所と重なり、バスの定時性、速達性で支障が出かねないとの疑問も、都心部への車の乗り入れを抑制するためにも、市電が大切な役割を果たすと指摘。小形市議は、市電の延伸ルート3路線の検討状況と、その受け止めに質問しました。

吉岡副市長は、「地道な検討を積み重ねてきているところ」「なかなかみなさんに逐一発信できる状況にない」と答弁。小形議員は、「JRの各駅に接続してこそ、市民も来訪者にも喜ばれる乗り物として役割を果たせる」と提案しました。

清田のまちづくり 区民の声生かして 吉岡議員

■ 豊平区から分区して23年、公共交通に関心集中

清田の拠点機能向上に向けた、官民連携によるまちづくりの基本的な考え方が、町内会長さんなどで構成される清田まちづくり区民会議に示され、パブリックコメントを経たのちわずか半年で策定されました。吉岡議員は拙速にすすめる区民の意見を慎重に聞いてすすめるように要望しました。パブコメでは、街づくりにかかわる回答で、地下鉄とバスに関する意見がそれぞれ31%と、公共交通機関への関心の高さを示しました。



■ 大規模な住民のアンケートも検討していく

吉岡議員は、公共交通との関りで、区民センターにつながる道路の幅員が狭く路線バスがないことから、「区民センターの移転が急がれる」と提案。真駒内駅前でのまちづくりでは、無作為に選ばれた6000人にアンケートを実施して2625人から回答も得る大規模なアンケートの実施したことを紹介し、「清田区でも」と提案。担当部長は、「大規模な区民へのアンケート調査についても、必要に応じて検討していく」と約束しました。